

平成26年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

キビキビ通学合宿

平成27年2月8日(日)～14日(土)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

家庭から離れた共同生活の中で、様々な生活体験活動を通して、「生きる力」の基盤となる豊かな人間性や人間関係能力を高めるとともに、基本的生活習慣の定着や規範意識の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 日程

平成27年2月8日(日)～14日(土)

(2) 募集人員

15名 (吉備中央町の小学校第3, 4, 5, 6学年)

(3) 参加者

9校・22名 (第3学年男児4名・女児3名, 第4学年男児4名・女児2名,
第5学年男児3名・女児2名, 第6学年男児2名・女児2名)

(4) 企画・運営のポイント

◇募集定員を5名増員して15名とした。

前年度の応募状況や地域の保護者の声を考慮し、募集定員を増やした。

◇当施設のボランティアが活動できるようにした。

参加者それぞれに丁寧な対応ができるように、当施設のボランティアを動員し生活をサポートできるようにした。

◇夕食を自炊する際のプログラムを生活中心に変更した。

キビキビタイムとして「生活タイム」と「活動タイム」の2活動に取り組んでおり、前年度は、夕食の自炊に時間がかかったことから「活動タイム」を実施することができなかった。今年度は、自炊での夕食後に「活動タイム」を設定せず、生活タイムに集中できるようにした。

◇最終日の午後の活動を16時まで延長した。

前年度は最終日の午前中に記念品を作成して閉会式を行った。今年度は午前中に児童が計画した活動を実施できるようにし、事業中にグループでその活動内容を企画できるようにした。

◇児童の状況を把握・共有し個別に対応できるようにした。

健康観察やその日の記録を兼ねたノートを作成し、毎日記録して児童の心と体の健康状態が把握できるようにした。さらに、活動内容や児童の様子を、スタッフで情報

共有して引き継げるように当日の夜と翌日の朝にミーティングを設けた。

◇Facebook を活用して活動の様子を発信した。

児童たちの生活の様子を Facebook で発信することで、保護者への安否報告とした。

3. 活動の内容等

(1) 日程等

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1日目 2月8日(日)								受付	入所式	オリエンテーション	キビキビタイムの計画	夕食(レストラン)	キビキビタイム	入浴	キビキビタイム	就寝準備	就寝	
2日目 2月9日(月)	起床・洗面	清掃	朝食(レストラン)	登校	学校							キビキビ宿題タイム	夕食(自炊)	入浴	キビキビタイム	就寝準備	就寝	
3日目 2月10日(火)	起床・洗面	清掃	朝食(レストラン)	登校	学校							キビキビ宿題タイム	夕食(レストラン)	キビキビタイム	入浴	キビキビタイム	就寝準備	就寝
4日目 2月11日(水)	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食(レストラン)	キビキビタイム			昼食(レストラン)	キビキビタイム			キビキビ宿題タイム	夕食(自炊)	キビキビタイム	入浴	就寝準備	就寝	
5日目 2月12日(木)	起床・洗面	清掃	朝食(レストラン)	登校	学校							キビキビ宿題タイム	夕食(レストラン)	キビキビタイム	入浴	就寝準備	就寝	
6日目 2月13日(金)	起床・洗面	清掃	朝食(レストラン)	登校	学校							夕食(自炊)			キビキビタイム	入浴	就寝準備	就寝
7日目 2月14日(土)	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食(レストラン)	キビキビタイム			昼食(レストラン)	クラブ作成		退所式							

(2) 活動の状況

◇オリエンテーション

通学合宿を開始するに当たり、施設使用に必要な情報やルールを確認する時間とした。

さらに、初めて出会った児童達もいることから、通学合宿で呼び合う名前を決めたり、緊張をほぐすゲームを取り入れたりした。

オニゴッコを3パターンのルールで体験した。このときに感じたことを基に、同じ「オニゴッコ」でも活動のルールを工夫することで楽しさが変わることや、同じ活動を体験してもそれぞれが感じることに気付けるようにした。

◇夕食の自炊

今年度も6回の夕食のうち3回は自炊にチャレンジした。

メニューは、1回目が「カレーライス」、2回目は「クリームシチュー、ご飯」、3回目は「手打ちうどん、ほうとう鍋、ぬか漬け」とした。3回目の夕食で食べる「ぬか漬け」を2回目に作ることで、回を重ねるごとに作業が多くなり、難易度が高くなるようにした。

◇夜のキビキビタイム

毎晩設定しているキビキビタイムには2つのパターンを設定した。1つは「洗濯・就寝準備・生活ノートの記入」といった生活タイム、もう1つは「グループで考えた活動」をする活動タイムである。夕食が自炊の日は生活タイムだけを実施し、夕食がレストラン食の夜は活動タイムも実施した。

活動タイムでは、けん玉やコマ回しといった昔遊びやボードゲーム、施設の探検や肝試しなどの遊びをグループで考えて取り組んでいた。

さらに、夕食がレストラン食の夜には、就寝前に通学合宿の約束が達成できているかをみんなで確認する時間を設けた。

通学合宿の目標は「みんなで生活するので、みんなのことを考える。(みんな)」、「自分のことは自分で最後までやりきる。(チャレンジ)」、「友達ができるようになるために応援する。(おもしろい)」、「あいさつ、かたづけなどをきちんとする。(生活)」、「一人ではできないことは、力を合わせる。(協力)」、「楽しく生活するために工夫する。(楽しく)」の6項目であった。

特に「みんなで楽しく生活するにはどうすればいいのか」ということについて時間をかけて話し合いをした。

通学合宿前半に、グループで約束を達成するための行動目標を考えたところ、「自分にされて嫌なことはしない」、「暴力をふるわない」、「悪口は言わない」といったことが挙げられ、期間中に忘れないようにそれらを模造紙に書き留めた。

そして、行動目標が達成できているかについて話し合う時間を設けた。達成できていない目標についてはどうすればできるようになるのかを考えたり、必要に応じて行動目標を追加するなどの修正を加えたりした。

◇11日(水)の活動

今年度は11日が祝日だったため、登校せずに当施設で過ごした。

活動を始める前に、宿泊室の掃除やベッドの清掃をした。その後、ボランティアが掃除の点検をして、良かった点や改善点を児童たちに伝えた。

午前中は最終日の活動計画をグループで決め、午後はグループでのウォークラリーを体験した。

午前中の話し合いではグループのメンバーでの「やりたい遊び」が色々だったことから、意見がなかなかまとまらず、自分の意見と相手の意見を調整するという課題に向き合うことができた。

そして、午後も同じグループでウォークラリーを体験し、出発前に作戦会議をしたり道中でコースの選択をしたりすることで、仲間と1つの活動を楽しむための工夫について考えることができた。

◇最終日の「みんなで考えた活動」

最終日には宿泊室の掃除をした後に、11日に話し合いをして決めた活動を実施した。各グループに与えられた時間を自分たちで計画し、進行やルールの説明もグループで担当した。

活動内容は「おもしろ自転車」、「宝物探し」、「森のスタジアム」、「芝そり遊び」であった。

◇クラフト作成

最後の活動に焼き板カレンダーを作成した。焼き板の上部に通学合宿で心に残ったことや、これから大切にしたいことを言葉で書いたり絵に描いたりした。



【アイスブレイク】



【レストランでの食事】



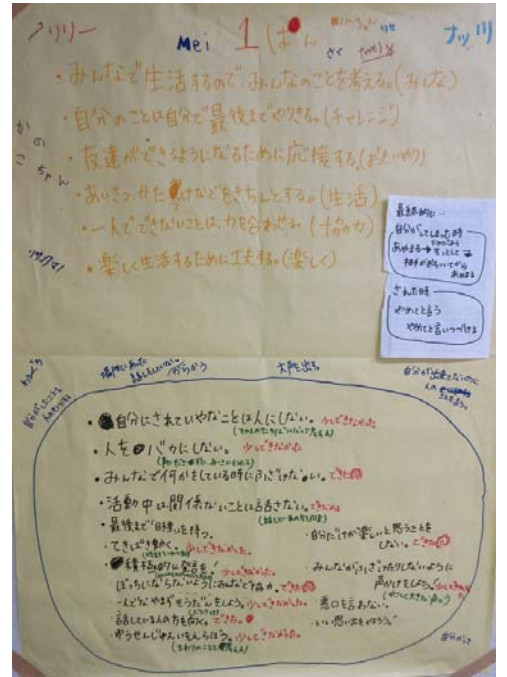
【登校】



【キビキビ宿題タイム】



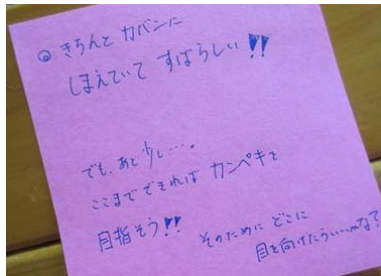
【自炊①】



【みんなで作ったルール】



【自炊②】



【ベッドと荷物の点検】



【ふりかえり】



【ルール作り】



【焼き板】

4. 成果・課題

(1) 成果

◇自分たちの生活のことを自分たちでできるようになった。

洗濯、掃除、ベッドメイキング、夕食作り、登校準備等、家庭では保護者の役割になっていることもある。特に家庭での生活では、洗濯物をネットに入れるところから、整えるところまで経験する機会はとても少ない。

そのためか、事後の感想にも「洗い物や洗濯の大変さが分かった」、「一番大変だったことはベッドメイキングでした」とあり、児童達にとって新鮮で重要な体験となったことが分かる。また、保護者からは「今までこちらから頼む形で家の手伝いはさせていましたが、帰宅後は自らやってくれる事が増えました。成長が見られます。」や「合宿で作ったシチューを早速作ってくれました」といった感想があった。

◇時間を意識して生活できるようになった。

通学合宿の後半は、夕食後の時間管理を各グループに任せた。お風呂の時間や洗濯、就寝準備、宿題が終わっていない場合はその時間をいつ設けるかもグループで考えて計画を立てた。

そうすることで、与えられた計画に合わせて行動するだけでなく、計画と時間を意識して行動することができた。

帰宅後に、「自分が遅いと人に迷惑がかかる」、「宿題は早くやっておくと後が楽」と保護者に話す児童や、言われなくても宿題に取り組めるようになった児童もいる。

◇テレビ、テレビゲーム、おやつなしの生活を楽しむことができた。

テレビやテレビゲームが無い生活をする中で、自分達で楽しむ方法を考えることができた。準備したボードゲームを楽しむ児童もいたが、手遊びを教えあって遊んでいる児童や、施設内を探検して楽しんでいる児童もいた。

事後のアンケートでは、保護者から「友達から教えてもらった手遊び（アルプス一万尺）を家族と一緒にしたいと言って、何度もしています。テレビやゲームがなくても面白い遊びはあることを学んできてくれたのだと思います。」や「『おやつは食べなくても大丈夫!』とビックリです。食事以外の間食が無かったためか、身体が少し締まって帰ってきました」といった感想があった。

◇仲間との協同生活を通し、協力したり相手を気遣ったりできるようになった。

「みんなで楽しく生活するにはどうすればいいのか」を考えることで、自分の意見をどうやって伝えて、相手の意見をどうやって受入れるのかを考えられるようになった。

事後の保護者アンケートには「これまで一人遊びが多かったが、自分から『一緒に遊ぼう』と友達に声をかけることが増えた」や「違う学校の子と知り合えた事を嬉しそうに話してくれ、小さな輪の中だけでなく、大きな輪の中でも頑張れることが分かったようです。」、「家ではちょっと気に入らないことがあるとすぐスネることが多いのですが、合宿から帰ってからは、スネてもすぐ機嫌が良くなり、切り替えが早くなったように感じています」と感想があった。

(2) 保護者の声

○ 事業全体に対する満足度・・・92.9%

{保護者自由記述}

- ・児童たちが、力を合わせてみんなで一緒に考えて取り組む事ができて本当に良かったです。
- ・一週間、テレビやゲームのない生活、自分の事は自分です、家ではなかなかできない経験をさせてもらった事は児童にとって良い経験ができました。
- ・児童にとっては親と離れる一週間だったと思いますが、こちらにしてみると子と離れる一週間であり、改めて子どもとの日常を振り返る貴重な時間となりました。「〇〇しなさい」ではなく、「どうしたらいいのか」を考えさせる手法を自分も上手に使ってみたいと思います。

(3) 今後の課題等

◇夕食後に話し合いの時間を設ける。

今回、夜の話し合いが長くなったため、就寝時間が遅くなった日があった。

話し合いのテーマは「みんなで楽しく生活するにはどうすればいいのか」が大きなテーマであり、生活する中でのルール作りをするなど充実した内容であった。

しかし、意見がまとまるまでに時間がかかり、就寝が23時になる日もあったため、次年度は話し合いの時間を夕食後に設けるなどの工夫が必要である。

◇参加人数を減らし実施回数を増やす。

今年度は定員を超える22名の参加者を受入れた。今年度からボランティアが事業に関わるようにしたことで、細やかな対応をすることができた。

しかし、ボランティアが一人もいない日もあったため、その日は班別活動を展開できずに全体活動が中心となった。

そのため、来年度は班別活動を中心に事業を展開できるように定員を減らして実施したい。ただし、地域からの応募数を考えると、多くの児童が参加できる機会を確保するためにも実施回数を増やすなどの対応を検討する必要がある。

◇期間を通じて参加できるボランティアを確保する。

今年度は最長5日間参加したボランティアもいれば1泊2日で参加したボランティアもいた。参加日数が長いほど児童の様子を把握し、それぞれに応じた対応ができるようになったことから、来年度は極力全日程参加できるボランティアを確保したい。

担当：企画指導専門職 渡邊 剛志